学校だより

11 月号

～ひとがすき　まちがすき　いわさきの子～

横浜市立岩崎小学校　　電 話 ３３１－５１２３　　ＦＡＸ ３３１－５３４３

読書で心に栄養を

副校長　西山　久美子

朝夕はぐんと冷え込むようになり、道には色づいた木の葉が増えてきました。11 月 7 日には立冬を迎え、季節がまたひとつ進んでいきます。そんな晩秋の中、「子ども達が、自分に合った本と出会ったり、読書をする楽しさを知ったりする機会を増やし、子ども達の本に親しみ、好きになる心を啓発する」というねらいのもと、今年の読書週間が始まりました。

岩崎小学校では以前より読書活動を大切にしています。毎週木曜日の朝は、読書タイムとして全学級がじっくりと「本を読む時間」を過ごしています。校舎を回ると、みんなが本に集中し、ページをめくる音が静かな教室に聞こえてきます。「本と仲良しタイム」では「おはなしくれよん」の皆様にご協力いただき、本に親しむ取組を続けてきました。巧みな語りや子どもの興味関心が高まる工夫で、子どもたちをあっという間に本の世界へ導いてくださいます。また、今年度は全クラスの「学級文庫」をリニューアルし、いつでも本を手にすることができる環境づくりにも取り組んできました。そして、先日 10 月 29 日には、全校一斉「教師による読み聞かせタイム」を行いました。朝の読書タイムを利用し、全クラスに 2 名の教師が入り「読み聞かせ」をするという内容です。本を選ぶ私たちも、わくわくしながら学校図書館に向かいました。他にも図書委員会によるスタンプラリーや紙芝居発表など、児童が考えた読書への取組も活発に行われています。岩崎小学校の子どもたちの、本に親しむ姿がたくさん見られることは大変うれしいことです。

本を読むことには多くの効果があると知られています。この先どうなるのかなあ、どきどきするなあなど心を躍動させながら、登場人物の気持ちに共感したり、情景を思い浮かべたりする経験は、相手の気持ちを想像したり、相手の立場に立って考えたりできる力につながります。また、知識や語彙が増えることも効果の一つです。「なるほど」「そういうこともあるのか」とこれまで知らなかったことに出会えるのも読書の楽しみですね。自分の世界が本を通して大きく広がり、その経験を重ねることで多様な見方や考え方ができるようになっていくことは、まさに心の栄養です。子どもたちには、今こそ本に親しみ、心豊かな時間を過ごしてほしいと願っています。

今日も学校図書館を覗くと、じっくりと読む子、どの本を選ぼうか真剣に棚を見つめる子、貸出手続きを終え嬉しそうに本を胸に抱える子、それぞれがまた一つ心に栄養を蓄える時間を迎えていました。秋から冬へと季節は移りますが「読書の冬」もまた心温まるものになりそうです。